

令和4年度

中学生チャレンジテスト
(第3学年)
結果について

柏原市教育委員会

1. 調査目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 大阪府教育委員会が、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (3) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (4) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (5) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2. 調査概要

- | | |
|----------|------------------------|
| (1) 調査日 | 令和4年9月6日(火) |
| (2) 対象学年 | 中学校第3学年全生徒 |
| (3) 調査内容 | 国語・社会・数学・理科・英語・アンケート調査 |

※調査問題・結果資料は、大阪府ホームページ内に掲載されています。

調査問題(R4):

https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/challenge_04_mondai.html

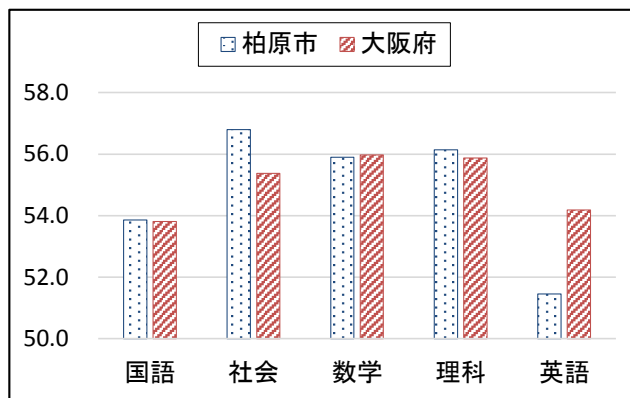
結果資料(R4):

<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/r04challenge-kekka.html>

調査結果【概要】

① 各教科の平均点

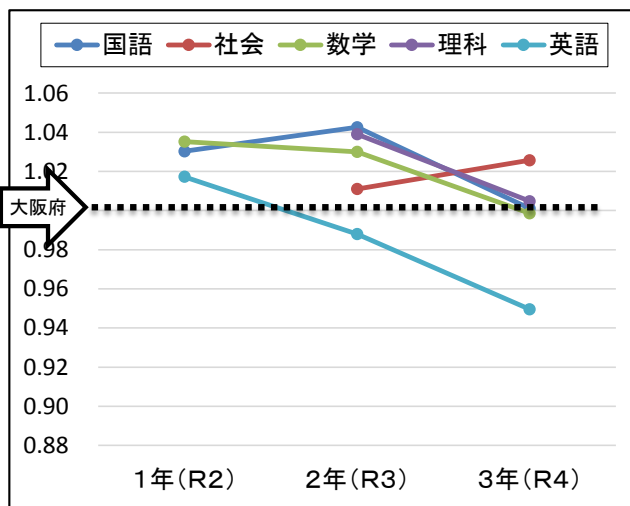
	柏原市	大阪府	差(市-府)
国語	53.9	53.8	0.1
社会	56.8	55.4	1.4
数学	55.9	56.0	▲ 0.1
理科	56.1	55.9	0.3
英語	51.5	54.2	▲ 2.7



② 同一集団の経年変化(対大阪府比)

	1年(R2)	2年(R3)	3年(R4)
国語	1.03	1.04	1.00
社会		1.01	1.03
数学	1.04	1.03	1.00
理科		1.04	1.00
英語	1.02	0.99	0.95

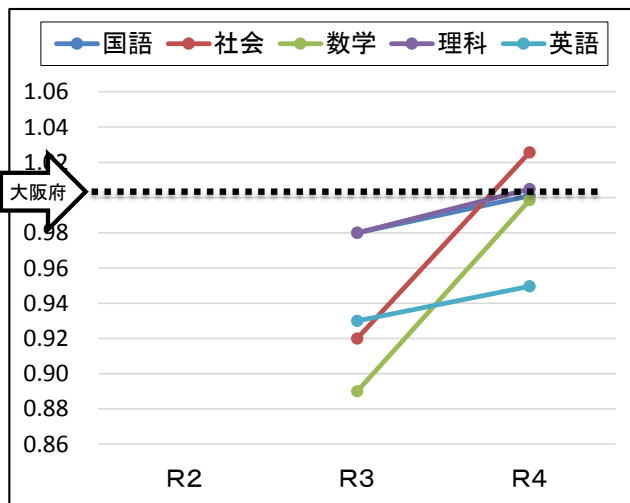
※社会・理科で選択された問題が異なる場合は、各結果の平均値を示している。



③ 前年度までの3年生との比較(対大阪府比)

	R2	R3	R4
国語		0.98	1.00
社会		0.92	1.03
数学		0.89	1.00
理科		0.98	1.00
英語		0.93	0.95

※社会・理科で選択された問題が異なる場合は、各結果の平均値を示している。
※令和2年度は調査未実施。



① 各教科の平均点

○国語科・社会科・理科では、府の平均点を上回った。特に社会科では、1.4点上回った。
▼数学科・英語科では、府の平均点を下回った。特に英語科では、2.7点下回った。

② 同一集団の経年変化(対大阪府比)

○社会科では、2年次よりも対府比における数値が上昇している。
▼国語科・数学科・理科・英語科では、1・2年次よりも対府比における数値が下降している。特に英語科では、1.02から0.95と大きく下降している。

③ 前年度までの3年生との比較(対大阪府比)

○すべての教科で、対府比における数値が昨年度の3年生より上昇している。

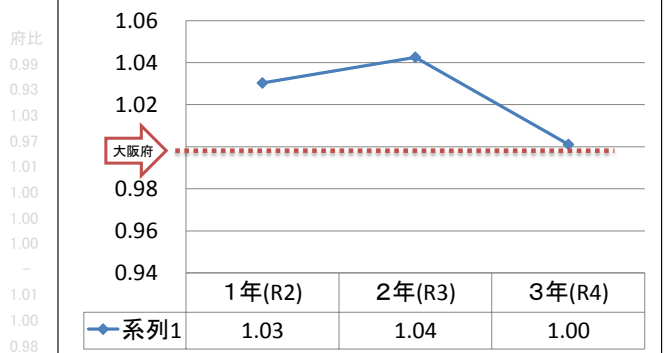
調査結果【国語】

	平均点
柏原市	53.9
大阪府	53.8

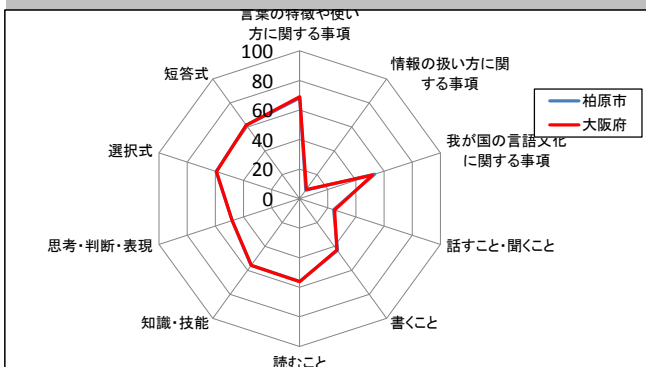
※得点率(%)=平均点/設問数

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)※	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	知識及び技能	10	68.2	69.1
	情報処理の能力	1	7.2	7.7
	我が国の言語文化に関する事項	6	53.4	51.7
	思考力	4	24.2	24.8
	判断力	4	43.3	42.9
評価の観点	表現力等	12	56.1	56.2
	知識・技能	17	55.9	55.7
	思考・判断・表現	19	47.9	48.0
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
	選択式	12	59.5	59.1
	短答式	15	61.4	61.4
	記述式	4	27.3	27.7

◆同一生徒集団の経年変化（対大阪府比）



◆領域別等のレーダーチャート

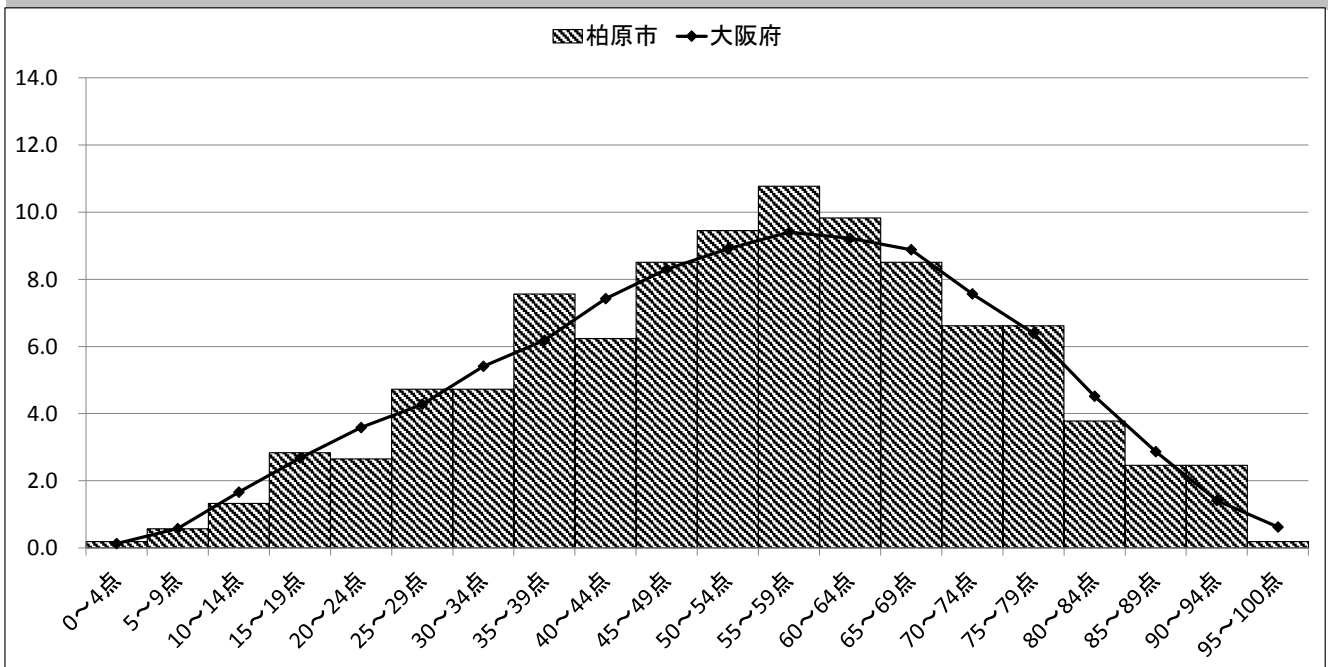


◆特徴的な傾向

- 全体の平均点は、0.1ポイント府を上回っている。
- 得点率が「我が国の言語文化に関する事項」の領域で1.7ポイント府を上回っている。
- ▼同一生徒集団の経年変化（対大阪府比）では、低下傾向にあり、3年間で最も低い結果となった。
- ▼「情報の扱い方にに関する事項」の領域において、設問数が1問ではあるが、得点率が7.2%と非常に低い(大阪府も同等)。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



【国語】 課題の見られた問題

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	二	1	
問題の概要	動詞の活用形が他と異なるものを選択する		
出題の趣旨	用言の活用について理解している		
領域	言葉の特徴や使い 方に関する事項	評価	知識・技能 形式 選択式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	30.8	1.3
大阪府	37.0	1.0

問題の文章については、著作権者への配慮から掲載を控えています。

本文中のA～Dの語のうち、他と活用形が異なるもの一つを選びなさい。

- A : …わかると思います。
- B : 科学は、見えない部分で…
- C : これまで考えたことがなかった…
- D : 科学の考え方を応用するということを通して…

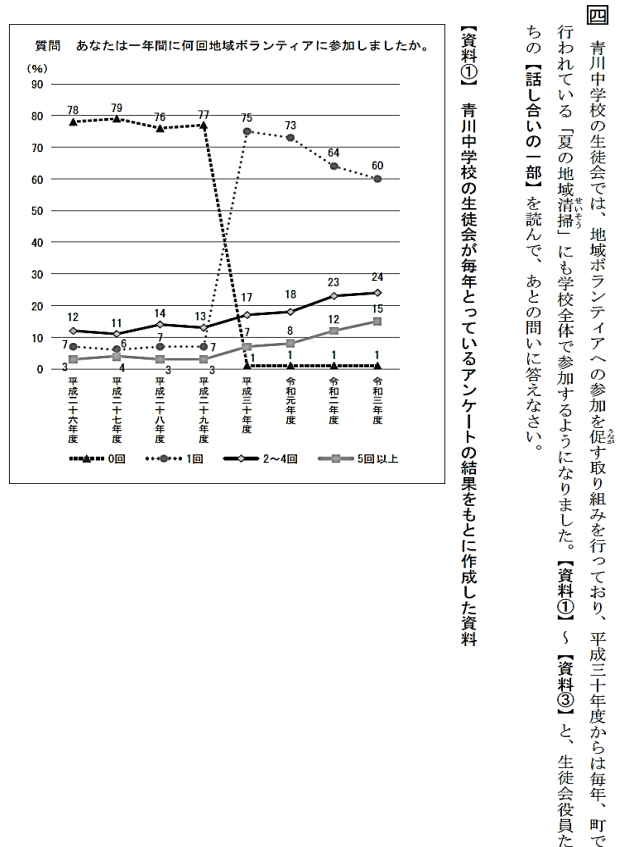
正答 B

- ・府と比較して正答率の開きが最も大きかった問題である。
- ・最も多かった誤答は「D」で、38.4%(府31.8%)の生徒が選択しており、正答の割合より大きい。
- ・基本的な用言の活用について理解するとともに、多くの文章にふれ、動詞の活用形を判別できる力を育成する必要がある。

▼無解答率が高かった問題

問題番号	四	4	
問題の概要	案を考えて条件に従って書く		
出題の趣旨	目的に応じて、異なる立場や考えを想定しながら、伝える内容を検討することができる		
領域	話すこと・聞くこと 書くこと	評価	思考・判断・表現 形式 記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	20.8	68.1
大阪府	20.9	68.1



正答 (私は、)地域の方からの「夏の地域清掃」に参加した青川中学校の生徒へのメッセージを動画で撮り、全校集会で流したらよいと思います。そうすれば、地域の方の感謝などが伝わり、地域の人の役に立ったという気持ちになると思います。【百四字】

- ・無解答率が最も高かった問題である(府も同様)。
- ・解答を記述することができた生徒は約3割であり、そのうち約65%が正答である。
- ・複数の資料をもとに行った話し合いをふまえ、条件に従って案を考える問題である。資料を読み取る力に加え、目的に応じて、異なる立場や考えを想定しながら伝える内容を検討できる力を育成する必要がある。また、自分の考えや意見を書く機会をさらに充実させる必要がある。

調査結果【社会】

	平均点
柏原市	56.8
大阪府	55.4

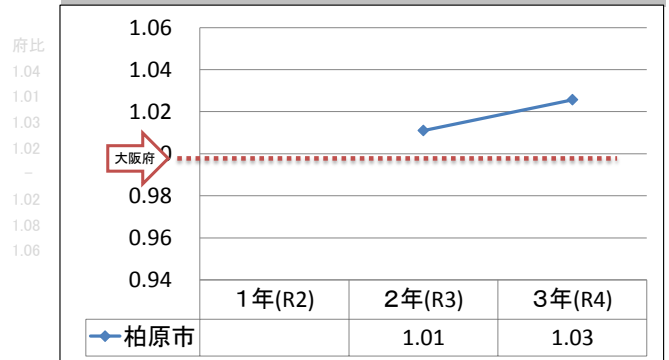
※得点率(%)=平均点/設問数

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)※	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	地理的分野	18	57.7	55.7
	歴史的分野	18	55.8	55.1
評価の観点	知識・技能	28	60.7	59.1
	思考・判断・表現	8	44.3	43.4
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	30	58.2	57.4
	短答式	4	62.2	57.5
	記述式	2	34.3	32.4

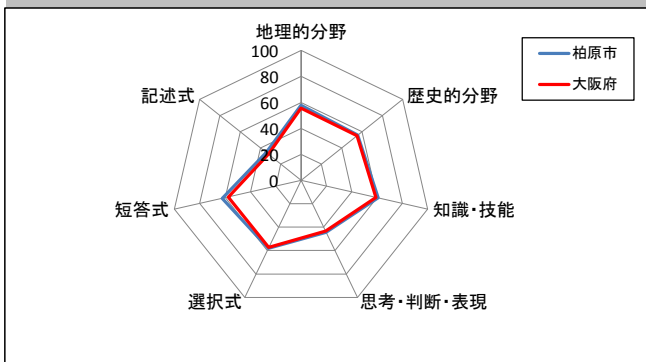
※令和2年度(1年次)は調査なし。

※令和3年度(2年次)は、【社会A】と【社会B】の数値の平均をとった数値で示している。

◆同一生徒集団の経年変化(対大阪府比)



◆領域別等のレーダーチャート

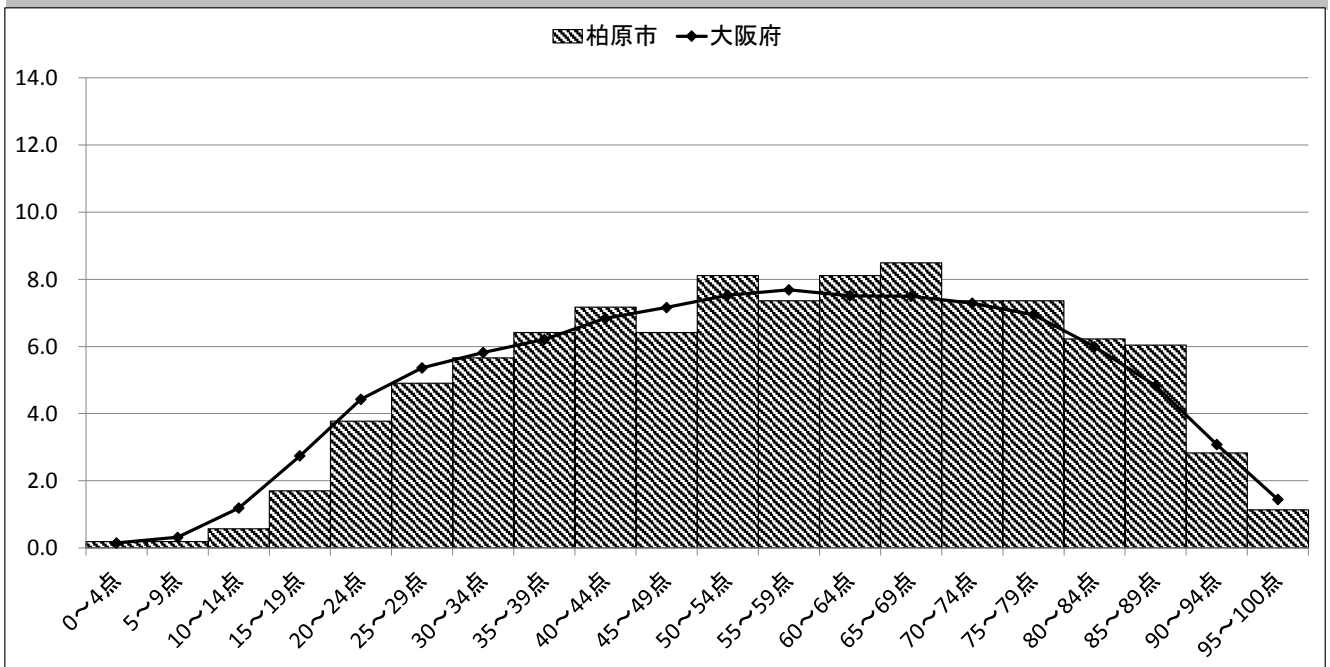


◆特徴的な傾向

- 全体の平均点は、1.4ポイント府を上回っている。
- 同一生徒集団の経年変化(対大阪府比)では、昨年度より上昇している。
- 得点率が「地理的分野」の領域で2.0ポイント、「知識・技能」の観点で1.6ポイント、「短答式」の問題で4.7ポイント、「記述式」の問題で1.9ポイント、府を上回っている。それ以外の項目についても府を上回っている。
- 得点分布の割合では、30点未満の割合が府より少ない。
- ▼「記述式」の問題では、得点率が府を上回ってはいるが、34.3%であり他項目より低い。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



【社会】課題の見られた問題

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	2	(1)	④
問題の概要	平安時代に起こったできごとを年代の古い順に並べたものを選ぶ		
出題の趣旨	平安時代のできごとの推移を考察することができる		
領域	歴史的分野	評価	思考・判断・表現 形式 選択式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	32.5	0.4
大阪府	36.7	0.2

2 ゆかさんのクラスでは、大阪府内にある、古くから人々の暮らしに関わってきたいくつかの場所を調べるようになりました。次の問いに答えなさい。

正答 オ


(1) ゆかさんは、狭山池について調べました。【メモ1】は、ゆかさんが調べたことをもとにつくったものです。あとの問いに答えなさい。

④ 【メモ1】中の下線部④の随筆は平安時代に著されました。平安時代に起こった次のA～Cのできごとを、年代の古いものから順に並べた場合の正しい組み合わせを、あとのア～カから1つ選びなさい。

【メモ1】

○狭山池について

- 現在の大阪狭山市にあるため池である。
- 中国や朝鮮半島から日本に伝わったとされる土技術などを使ってつくられた。
- 飛鳥時代に川の流れをせき止めてつくられたとされる。
- 現在に至るまで何度も改修されており、奈良時代には行基が改修に関わった。
- 『枕草子』に狭山池のことが記されている。



- A 平治の乱が起こる。
B 平清盛が太政大臣になる。
C 平将門の乱が起こる。

- ア A → B → C
イ A → C → B
ウ B → A → C
エ B → C → A
オ C → A → B
カ C → B → A

・府と比較して正答率の開きが最も大きかった問題である。
・最も多かった誤答は「カ」で、17.5%(府31.8%)の生徒が選択している。その他の選択肢はいずれも10%程度の割合である。
・平安時代のできごとを理解するとともに、年代順にその推移を考察する力を育成する必要がある。

▼無解答率が高かった問題

問題番号	4	(2)
問題の概要	図や表から読み取れる内容をもとに、配合飼料の生産工場の立地を書く	
出題の趣旨	配合飼料の生産工場の立地について、資料から読み取れる内容をもとに考察し、説明することができる	
領域	地理的分野	評価 思考・判断・表現 形式 記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	26.2	29.1
大阪府	27.9	33.0

4 ゆうまさんのクラスでは、日本の農業に関することについて班ごとに調べました。次の問いに答えなさい。

正答例 臨海部で、配合飼料の大消費地に近いところ

(2) さくらさんとたろうさんの班は、畜産について調べました。家畜に与えられる飼料(えさ)の原料となる穀物のほとんどを輸入に頼っていることに興味をもったさくらさんは、*配合飼料という飼料について調べました。すると、配合飼料は輸入された*飼料用とうもろこしなどを原料に工場で生産されていることがわかりました。図Ⅴは、配合飼料の生産量の多い上位5道県について、配合飼料の生産拠点となる工場が集まっている場所を示しています。また、表Ⅱは日本で飼養される家畜のうち配合飼料を多く消費する家畜について、飼養頭数の多い上位5道県の全国の飼養頭数に占める割合を示したものです。【会話文1】は、図Ⅴ、表Ⅱをもとにさくらさんとたろうさんが話したものです。あとの問いに答えなさい。

表Ⅱ 配合飼料を多く消費する家畜について、飼養頭数の多い上位5道県の全国の飼養頭数に占める割合(2019年)

順位	肉用牛	豚	*採卵鶏	*肉用若鶏
1位	北海道 20.5%	鹿児島県 13.9%	茨城県 8.3%	宮崎県 20.4%
2位	鹿児島県 13.5%	宮崎県 9.1%	千葉県 6.8%	鹿児島県 20.2%
3位	宮崎県 10.0%	北海道 7.6%	鹿児島県 6.4%	岩手県 15.7%
4位	熊本県 5.0%	群馬県 6.9%	岡山県 5.7%	青森県 5.0%
5位	岩手県 3.5%	千葉県 6.6%	広島県 5.1%	北海道 3.6%

*配合飼料：家畜の種類や生育段階、使用目的に合わせて必要な栄養素をむむように原材料を配合した飼料のこと。

*飼料用とうもろこし：飼料の原料になるところのこしの実で、配合飼料の主原料でもある。また長期の保存が可能である。

図Ⅴ 配合飼料の生産量の多い上位5道県について、配合飼料の生産拠点となる工場が集まっている場所



●工場が集まっている場所
(.....は県界を示す)

*採卵鶏：卵を採るために育成されるにわりのこと。
*肉用若鶏：肉用に育成されるにわりのこと。ブロイラーはこれに当たる。
(『日本畜産学会 2020/2021』により作成)

【会話文1】

さくらさん：日本の飼料用とうもろこしのほとんどは、アメリカとブラジルから輸入されているんだよね。
たろうさん：そうだよ。輸入された飼料用とうもろこしを原料にして、工場で作られた配合飼料が生産されているんだよ。
さくらさん：配合飼料の生産拠点となる工場はどのような場所に立地しているのかな。
たろうさん：図Ⅴから、工場のある場所は飼料用とうもろこしが輸入される際の輸送手段が関係しているんだね。飼料用とうもろこしは年間約1千万トンも輸入されているみたいだから、輸送手段は飛行機などは考えにくいね。
さくらさん：そうだね。
たろうさん：さらに、工場で作られた配合飼料を多く消費する家畜の飼養頭数が多い道県について表Ⅱにもまとめよ。表Ⅱ中の道県には配合飼料の大消費地があるとわかるね。
さくらさん：なるほど、飼料用とうもろこしが輸入される際の輸送手段と、工場で作られた配合飼料が家畜を飼養する畜産農家のもとへトラックなどで輸送されることから、配合飼料の生産拠点となる工場は、臨海部に立地していると考えられるね。

問い【会話文1】中の臨海部に入る適切なことばを、図Ⅴと表Ⅱから読み取れる内容をもとに15字以上、40字以内で書きなさい。

・無解答率が最も高く、正答率も最も低い(府も同様)問題である。
・解答を記述することができた生徒は約7割であり、そのうち約37%が正答である。
・複数の資料をもとに行われた会話の内容を補完する問題である。資料を読み取る力に加え、その内容をもとに考察し、説明する力を育成する必要がある。また、自分の考えや意見を書く機会をさらに充実させる必要がある。

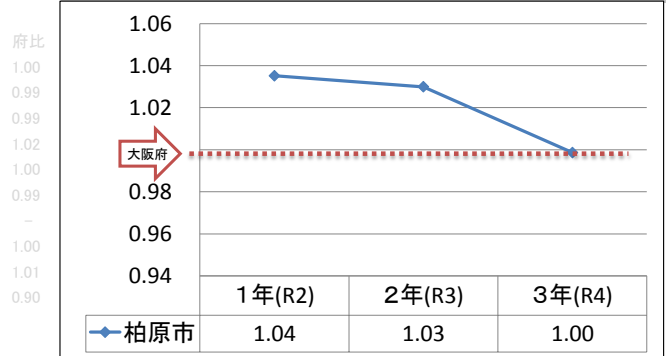
調査結果【数学】

	平均点
柏原市	55.9
大阪府	56.0

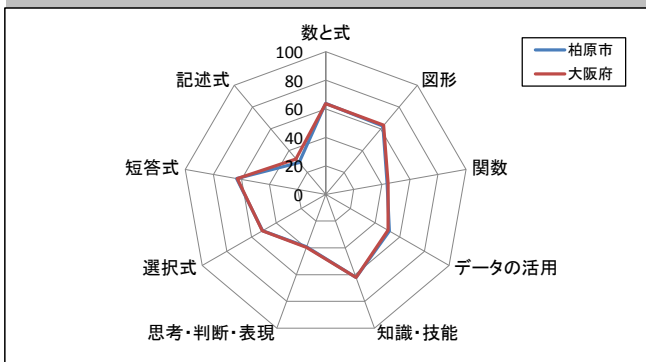
*得点率(%)=平均点/設問数

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	数と式	10	63.8	63.7
	図形	8	62.6	63.3
	関数	9	43.8	44.3
	データの活用	6	51.5	50.4
評価の観点	知識・技能	24	62.0	62.0
	思考・判断・表現	9	39.3	39.7
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	15	51.1	51.4
	短答式	16	63.5	63.1
	記述式	2	29.2	32.4

◆同一生徒集団の経年変化（対大阪府比）



◆領域別等のレーダーチャート

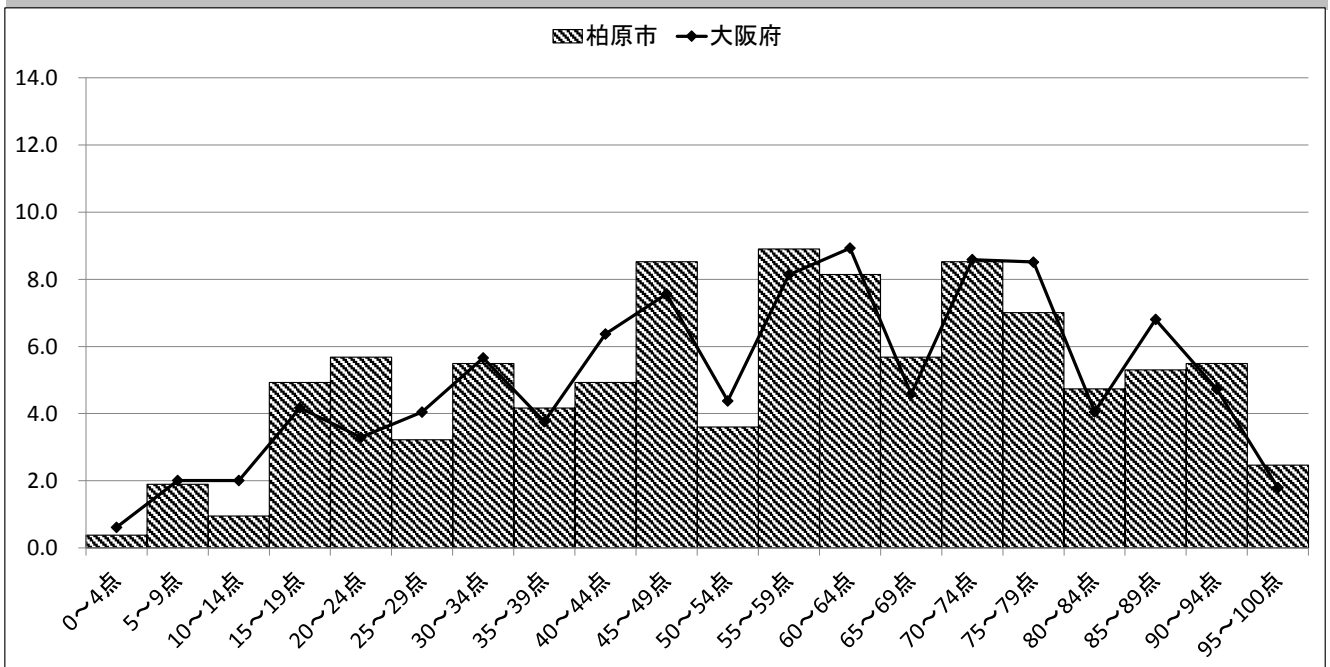


◆特徴的な傾向

- 得点率が「データの活用」の領域で1.1ポイント府を上回っている。
- ▼全体の平均点は、0.1ポイント府を下回っている。
- ▼同一生徒集団の経年変化(対大阪府比)では、平均点が低下傾向にあり、3年間で最も低い結果となった。
- ▼得点率が「記述式」の問題で3.2ポイント府を下回っており、29.2%と最も低い。
- ▼得点分布の割合では、20点前後の割合が府より多い。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



【数学】課題の見られた問題

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	7	(1)			
問題の概要	平行四辺形ABCDの対角線BD上に、 $BE=DF$ となる点E、Fをとるとき、 $\triangle CEB \equiv \triangle AFD$ を証明する				
出題の趣旨	筋道を立てて考え、三角形の合同条件を使って証明することができる				
領域	図形	評価	思考・判断・表現	形式	記述式

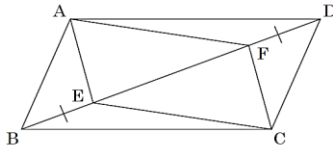
	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	28.4	39.8
大阪府	35.7	34.2

7 図のように、平行四辺形 ABCD の対角線 BD 上に、 $BE = DF$ となる点 E、F をそれぞれとります。

このとき、図において、 $\triangle CEB \equiv \triangle AFD$ を示し、それをもとにして、四角形 AECF が平行四辺形であることが証明できます。

(1)、(2)の間に答えなさい。

図



(1) $\triangle CEB \equiv \triangle AFD$ は次のように証明できます。証明 1 を完成しなさい。

証明 1

$\triangle CEB$ と $\triangle AFD$ において、



よって、 $\triangle CEB \equiv \triangle AFD$

正答例

($\triangle CEB$ と $\triangle AFD$ において、) 仮定より、 $BE = DF$ ……①
 平行四辺形の対辺の長さはそれぞれ等しいので $BC = DA$ ……②
 また、 $AD \parallel BC$ から、錯角が等しいので $\angle CBE = \angle ADF$ ……③ ①、②、③より
 2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい (よって、 $\triangle CEB \equiv \triangle AFD$)

- ・府と比較して正答率の開きが最も大きかった問題である。また、無解答率も2番目に高い問題である。
- ・解答を記述することができた生徒は約6割であり、そのうち約47%が正答である。
- ・図形を分析し、筋道を立てて考え、三角形の合同条件を使って仮定を証明する力を育成する必要がある。

▼無解答率が高かった問題

問題番号	4	(4)			
問題の概要	直線 l と x 軸、直線 m それぞれとの交点及びその2点を対称移動した点の4点を頂点とする四角形の面積を求める				
出題の趣旨	二元一次方程式を関数を表す式と捉え、交点の座標や対称移動した点からなる四角形の面積を求めることができる				
領域	関数	評価	知識・技能	形式	短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	20.5	48.1
大阪府	23.4	46.9

4 次の問いに答えなさい。

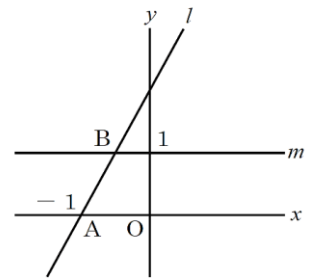
(4) 図3の直線 l は、点 $A(-1, 0)$ を通り傾きが2の直線です。直線 m は、点 $(0, 1)$ を通り x 軸に平行な直線です。点 B は2直線 l 、 m の交点です。

y 軸を対称の軸として直線 l を対称移動した直線と、直線 m 、 x 軸との交点をそれぞれ点 C 、点 D とするとき、4点 A 、 B 、 C 、 D を頂点とする四角形の面積を求めなさい。ただし、面積の単位は考えないものとします。

正答例

$\frac{2}{3}$

図3



- ・無解答率が最も高く、正答率も最も低い問題である(府も同様)。
- ・解答を記述することができた生徒は約5割であり、そのうち約39%が正答である。
- ・問題文から必要な直線を図に書き入れ、二元一次方程式を関数を表す式と捉えたり、交点の座標や対称移動した点からなる四角形の面積を求めたりする力を育成する必要がある。

調査結果【理科】 ※選択C

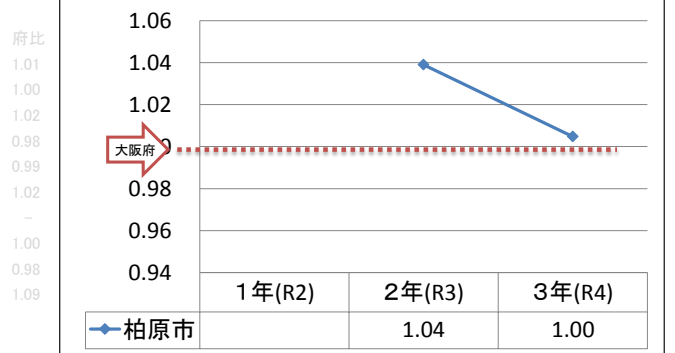
	平均点
柏原市	56.1
大阪府	55.9

※得点率(%)=平均点/設問数

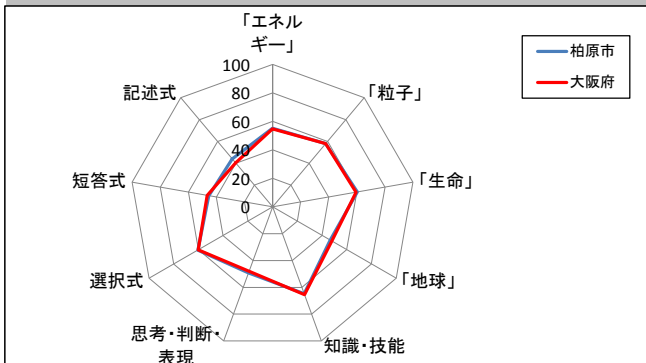
分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)※	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	「エネルギー」	6	55.2	54.8
	「粒子」	6	57.9	58.1
	「生命」	12	60.4	59.3
	「地球」	6	46.7	47.9
評価の観点	知識・技能	15	64.8	65.6
	思考・判断・表現	15	49.1	48.0
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	22	60.5	60.2
	短答式	6	45.5	46.6
	記述式	2	43.9	40.4

※令和2年度(1年次)は調査なし。
 ※令和3年度(2年次)は、【理科A】と【理科B】の数値の平均をとった数値で示している。

◆同一生徒集団の経年変化 (対大阪府比)



◆領域別等のレーダーチャート

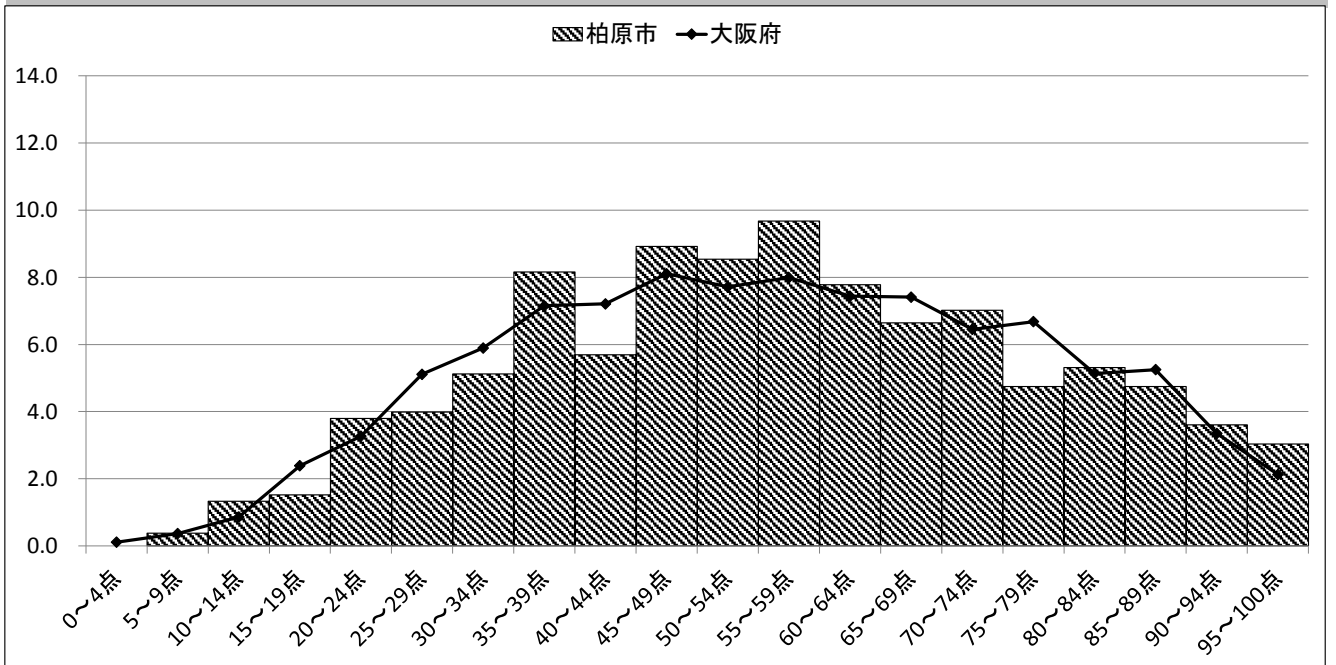


◆特徴的な傾向

- 全体の平均点は、0.2ポイント府を上回っている。
- 得点率が「生命」の領域で1.1ポイント、「思考・判断・表現」の観点で1.1ポイント、「記述式」の問題で3.5ポイント府を上回っている。
- ▼同一生徒集団の経年変化(対大阪府比)では、昨年度より低下している。
- ▼得点率が「地球」の領域で1.2ポイント、「短答式」の問題で1.1ポイント府を下回っている。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



【理科】 課題の見られた問題

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	3	(1)	①
問題の概要	マグマが冷え固まってできた岩石の名前を書く		
出題の趣旨	火成岩について理解している		
領域	「地球」	評価	知識・技能
		形式	短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	32.1	12.5
大阪府	40.3	12.1

3) みさきさんとひろとさんは、博物館で行われる岩石と地層の観察会に参加しました。博物館の先生の案内で、はじめに河原で岩石の観察を行い、次に露頭がある場所で地層の観察を行いました。(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) みさきさんは、河原で集めた4種類の岩石A～Dについて、表面をルーペで観察してスケッチをしました。表は、岩石A～Dのスケッチと岩石の特徴をまとめたものです。みさきさんはひろとさんと、4種類の岩石について話をしています。①～③の問いに答えなさい。

岩石	スケッチ	岩石の特徴
A		<ul style="list-style-type: none"> 同じくらいの大きさの粒が集まっている。 粒の形は、角ばっている。 全体的に白色や無色の粒が多い。
B		<ul style="list-style-type: none"> 1mmほどの大きさの粒が集まっている。
C		<ul style="list-style-type: none"> 形がわからないほどの小さな粒の間に、比較的大きな角ばった粒が散らばっている。 岩石Aよりも黒っぽい有色の粒が多い。
D		<ul style="list-style-type: none"> 主に2mm以上の大きさの粒が集まっている。 粒の形は、丸みを帯びている。

正答 火成岩

【会話1】

ひろとさん：この河原にはいろいろな岩石があるね。

みさきさん：そうだね。博物館の先生の話によると、この4種類の岩石は、砂岩、れき岩、花こう岩、安山岩だそうだよ。

ひろとさん：表の岩石A～Dはどれなのだろう。

みさきさん：そういえば以前、岩石のでき方や岩石にふくまれている粒の大きさ、形、色などによって、岩石を分類する方法を授業で学習したよね。

ひろとさん：海底などに堆積した土砂などが、長い年月の間に押し固められてできた岩石は堆積岩と呼ばれているんだよ。

みさきさん：堆積岩以外にマグマからできた岩石もあるよ。マグマが冷え固まって岩石になったものは⑤と呼ばれ、冷え方のちがいでよってさらに2種類に分けることができるんだよね。

ひろとさん：授業で学習したことを思い出ししながら、岩石A～Dが4種類のうちどれなのか考えてみよう。

みさきさん：岩石にふくまれている粒の形から、岩石Bと岩石Dは堆積岩で、岩石Aと岩石Cは⑥だと考えられるね。

ひろとさん：岩石Bと岩石Dは、粒の大きさから、岩石Bが⑦、岩石Dが⑧だとわかるね。

みさきさん：岩石Aと岩石Cは、粒の大きさ、形、色から、岩石Aが花こう岩、岩石Cが⑨だね。

① 【会話1】中の⑥に入る適切なことばを書きなさい。

- ・府と比較して正答率の開きが最も大きかった問題である。
- ・無解答率は12.5%だが、誤答を記述した生徒が55.4%である(府47.6%)。
- ・火成岩について理解するとともに、火山岩や深成岩と混同しないように丁寧に知識を整理する必要がある。

▼無解答率が高かった問題

問題番号	2	(4)	③
問題の概要	1.60gの酸化銅に0.12gより多い量の炭素を加えた場合、加えた炭素の質量と「残った固体」の質量との関係について炭素の粉末の質量ということばを用いて25字以内で書く		
出題の趣旨	2つの物質の化学変化において、一方の物質が多い場合の物質の質量の関係について表現することができる		
領域	「粒子」	評価	思考・判断・表現
		形式	記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	29.2	35.7
大阪府	25.9	42.6

2) だいさんは、次の実験<1>を行い、酸化銅から炭素をとり除く化学変化について考えました。(1)～(4)の問いに答えなさい。

<実験> 酸化銅から炭素をとり除く化学変化について調べる。

方法

- 酸化銅1.60gと炭素(炭)の粉末0.14gをよく混ぜ合わせて試験管Aに入れる。
- 図1の実験装置で酸化銅と炭素の粉末の混合物を加熱し、発生した気体を試験管Bに入れた石灰水に通し、石灰水の変化を観察する。
-
- 火を消してからゴム管をピンチコックで閉じ、試験管Aの中に残った固体(以下、「残った固体」とする)が冷めるまで待つ。
- 図2のように、ビーカーに水を入れ、「残った固体」を水の中に入れてかき混ぜ、物質が水面に浮くか底に沈むかを観察する。このとき、物質の色も観察する。
- 方法1**で、酸化銅1.60gと混ぜ合わせた炭素の粉末の質量を0.10gにかえて、**方法1**～**方法5**を行う。

結果

- ・**方法2**の観察で、石灰水は白くにごった。
- ・酸化銅と混ぜ合わせた炭素の粉末の質量が0.14gのとき、**方法5**の観察で、「残った固体」には、水面に浮いた物質と底に沈んだ物質があった。水面に浮いた物質は黒色の物質、底に沈んだ物質は赤色の物質だった。
- ・酸化銅と混ぜ合わせた炭素の粉末の質量が0.10gのとき、**方法5**の観察で、「残った固体」はすべて底に沈んだ。底に沈んだ物質には、黒色の物質と赤色の物質があった。

(4) だいさんは、<結果>の【結果】に関して、調べたことや以前に学習したことをふまえて考えた内容を【考察】にまとめました。①～③の問いに答えなさい。ただし、炭素や銅は、空気中の炭素とは反応しないものとします。

【考察】

I 酸化銅の粉末や銅の粉末は、水の中に入れてかき混ぜると底に沈んだ。一方、炭素の粉末は水の中に入れてかき混ぜると水面に浮いた。

II Iから、1.60gの酸化銅に混ぜ合わせた炭素の粉末の質量が0.14gのとき、**方法5**の観察で水面に浮いた黒色の物質は、反応せずに残った炭素の粉末だと考えられる。

また、1.60gの酸化銅に混ぜ合わせた炭素の粉末の質量が0.10gのとき、**方法5**の観察で「残った固体」がすべて底に沈んだことから、炭素の粉末はすべて酸化銅と反応したと考えられる。

III IIから、1.60gの酸化銅から炭素をすべて取り除くのに必要な炭素の粉末の質量は、0.10gより大きく0.14gより小さいと考えられる。

IV 以前行った実験で、銅が酸化銅になる化学変化の前後での質量変化を調べたとき、0.80gの銅が1.00gの酸化銅になったことから、結びつく銅の質量と炭素の質量の比は、銅：炭素＝④であることを学んだ。このことから、1.60gの酸化銅から炭素をすべて取り除くと1.28gの銅になると考えられる。

V 二酸化炭素ができるときに結びつく炭素の質量と炭素の質量の比を調べると、炭素：炭素＝3：8であることがわかった。

VI IVとVから、1.60gの酸化銅から炭素をすべて取り除くのに必要な炭素の粉末の質量は、0.12gだとわかる。

また、0.12gの炭素の粉末が1.60gの酸化銅から炭素をすべて取り除くと、⑤gの二酸化炭素が発生すると考えられる。

VII VIから、1.60gの酸化銅に混ぜ合わせる炭素の粉末の質量が0.12g以下のときは、すべての炭素が酸化銅と反応して、二酸化炭素となって試験管Aから出ていくと考えられる。だから、混ぜ合わせた炭素の粉末の質量が大きくなるほど、「残った固体」の質量は小さくになると考えられる。

これに対して、1.60gの酸化銅に混ぜ合わせる炭素の粉末の質量が0.12gより大きいときは、「残った固体」の質量は、混ぜ合わせた炭素の粉末の質量のうち⑥の分だけ、1.28gより大きくなると考えられる。

③ だいさんは、【考察】のVIIで1.60gの酸化銅に混ぜ合わせる炭素の粉末の質量をかけた実験を行った場合の、炭素の粉末の質量と「残った固体」の質量との関係について考えます。⑥に入る適切なことばを、炭素の粉末の質量ということばを用いて25字以内で書きなさい。

正答例

酸化銅と反応せずに残った炭素の粉末の質量【20字】

- ・無解答率が最も高く、正答率も3番目に低い問題である(府も同様)。
- ・解答を記述することができた生徒は約6～7割であり、そのうち約45%が正答である。
- ・2つの物質の化学変化において、一方の物質が多い場合の物質の質量の関係について表現する力を育成する必要がある。また、日頃の授業においては、実験方法と結果を正しく理解した上で、既習事項をふまえて考察する機会を充実させる必要がある。

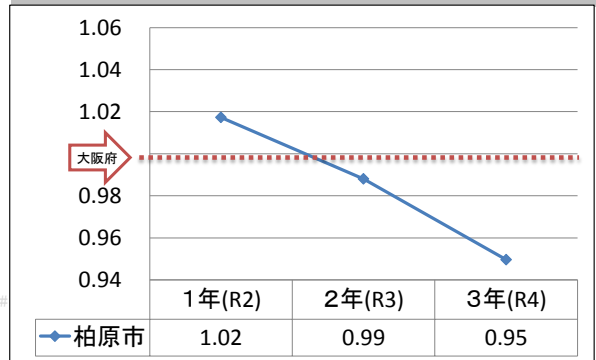
調査結果【英語】

	平均点
柏原市	51.5
大阪府	54.2

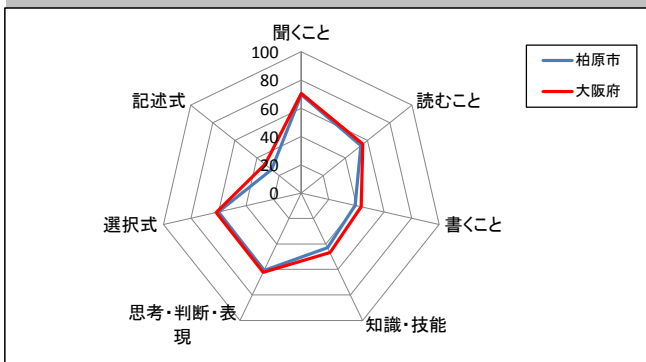
*得点率(%)=平均点/設問数

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)*		府比
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	聞くこと	10	69.5	70.6	0.98
	読むこと	10	54.0	55.6	0.97
	話すこと〔やり取り〕	—	—	—	—
	話すこと〔発表〕	—	—	—	—
	書くこと	15	39.1	43.5	0.90
評価の観点	知識・技能	19	43.0	46.8	0.92
	思考・判断・表現	16	60.7	62.2	0.98
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—	—
問題形式	選択式	26	60.1	61.7	0.97
	短答式	—	—	—	—
	記述式	9	26.8	32.8	0.82

◆同一生徒集団の経年変化（対大阪府比）



◆領域別等のレーダーチャート

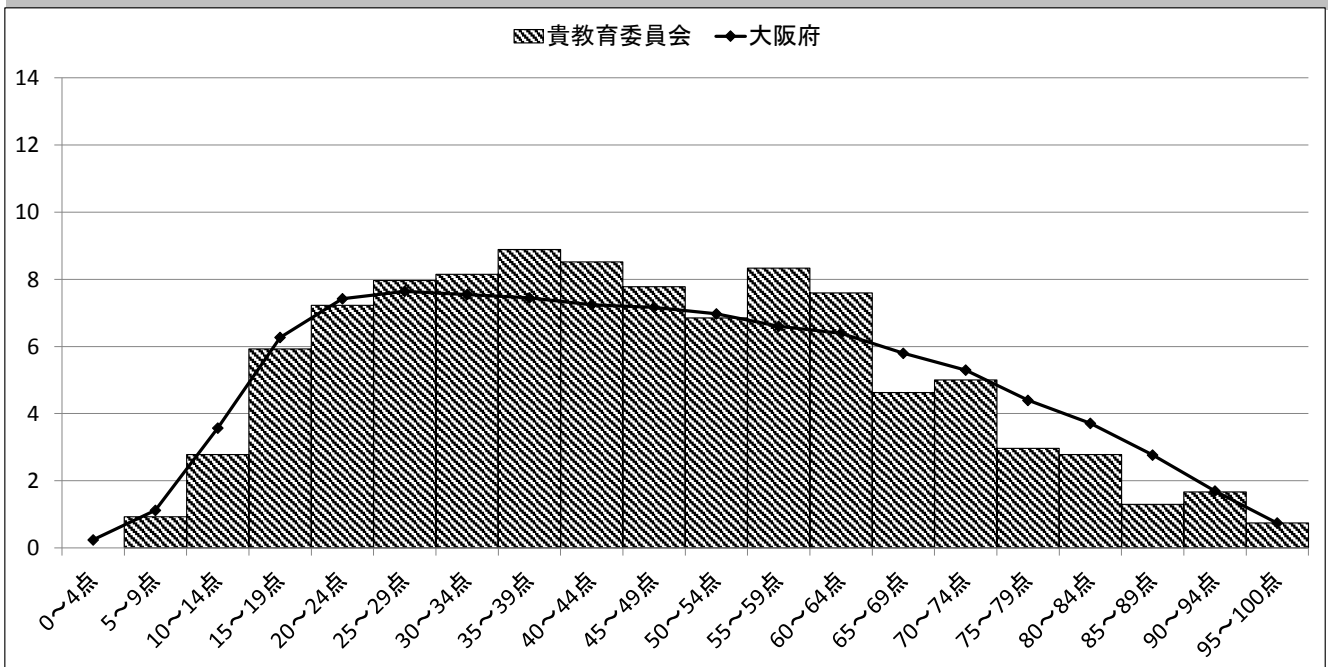


◆特徴的な傾向

- 得点分布の割合では、20点未満の割合が府より少ない。
- ▼全体の平均点は、2.7ポイント府を下回っている。
- ▼同一生徒集団の経年変化(対大阪府比)では、平均点が低下傾向にあり、3年間で最も低い結果となった。
- ▼得点率がすべての領域、観点、問題形式で府を下回っている。特に、「書くこと」の領域では4.4ポイント、「知識・技能」の観点では3.8ポイント、「記述式」の問題では6.0ポイント府を下回っている。
- ▼得点分布の割合では、70点以上の割合が府より少ない。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



【英語】課題の見られた問題

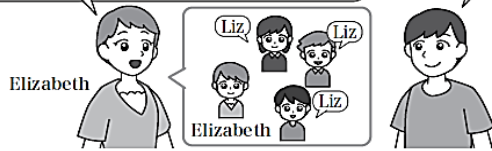
▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	7	(3)	※9(1)も同様の課題		
問題の概要	英文を読み、絵を見て内容を理解し、下線部に指示された語数の英語を入れ、英文を完成させる(「～を…と呼ぶ」という意味の第5文型)				
出題の趣旨	コミュニケーションの場面を理解したうえで、文法や語彙の知識を活用し、場面に応じた英文を書くことができる				
領域	書くこと	評価	知識・技能	形式	記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	51.2	15.9
大阪府	62.2	16.1

7 次の(1)～(3)のそれぞれの絵と吹き出しの中の英文を参考に、その内容と合うように下線部に指示された語数の英語を入れ、英文を完成させなさい。

(3) Nice to meet you. My name is *Elizabeth. Please 2語 *Liz. OK. Nice to meet you, Liz. 正答例 (Please) call me (Liz.)



(注) Elizabeth エリザベス (人の名前)
Liz リズ (Elizabethを短くした呼び方)

・府と比較して正答率の開きが最も大きかった問題である。
・無解答率は15.9%だが、誤答を記述した生徒が32.8%である(府21.7%)。
・英文を読み、絵を見て内容を正しく理解し、「～を…と呼ぶ」という意味の第5文型の英文を完成させる力を育成する必要がある。また、コミュニケーションの場面を理解して場面に応じた英文を書くことができるように、日頃の授業から場面設定を意識した言語活動を充実させる必要がある。

▼無解答率が高かった問題

問題番号	5	(5)	※5(4)も同様の課題		
問題の概要	メモをもとに、スピーチ原稿の下線部に指示された語数の英語を入れ、英文を完成させる(形容詞・前置詞 useful for)				
出題の趣旨	スピーチ原稿において、与えられた情報に基づいて、指示された英文を正しく書くことができる				
領域	書くこと	評価	知識・技能	形式	記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	27.9	42.1
大阪府	37.2	34.1

5 トモヤ (Tomoya) は、次の【図1 (Figure 1)】、【図2 (Figure 2)】の「ピクトグラム (pictogram)」について、英語の授業でスピーチをするために、【メモ】を作成しました。【メモ】をもとに、【スピーチ原稿】中の下線部(1)～(5)にそれぞれ指示された語数の英語を入れて、【スピーチ原稿】を完成させなさい。

【図1】



【図2】



【メモ】

「ピクトグラム」について

ピクトグラムとは	【図1】を見てください。それは「病院」を意味しています。これがピクトグラムです。	ピクトグラムは、情報を人々に与えるために絵を使っています。絵が使われているため、ピクトグラムの意味を理解するのは簡単です。
オリンピック競技大会とパラリンピック競技大会	昨年の夏、オリンピックとパラリンピックのピクトグラムをテレビで見ました。それ以来、私はずっとピクトグラムに興味があります。	日本のピクトグラムの歴史について学びました。1964年の東京でのオリンピックとパラリンピックに向けて、外国から来た人々を言葉を使わずに案内するために、何人かのデザイナーたちがピクトグラムを作りました。
身の回りのピクトグラム	【図2】を見てください。このようなピクトグラムを公共の場でよく見かけます。子どもたちや外国から来た人々も非常口の場所を知ることができます。	私は、ピクトグラムはみんなのために大変役立っていると思います。

【スピーチ原稿】

About pictograms

Have you heard the word, "pictograms"? I'm going to tell you about pictograms.

Look at Figure 1. (1) (2語) "hospital." This is a pictogram. Pictograms use pictures to give people some *information. It is easy to understand the *meanings of pictograms because pictures (2) (2語) in pictograms.

I saw the pictograms of *the Olympic Games and *the Paralympic Games on TV last summer. And *since then, I have (3) (3語) pictograms. So, I learned about the *history of pictograms in Japan. Some *designers made them for the Olympic Games and the Paralympic Games in Tokyo in 1964 to *guide people from *foreign countries without using words.

Look at Figure 2. We often see pictograms (4) (2語) in *public areas. Children and people from foreign countries can know the place of an *emergency exit. I think pictograms are very (5) (2語) everyone. Thank you for listening.

(注) hospital 病院 information 情報 meaning 意味
the Olympic Games オリンピック競技大会
the Paralympic Games パラリンピック競技大会 since then それ以来
history 歴史 designer デザイナー guide 案内する
foreign 外国の public area 公共の場 emergency exit 非常口

正答例

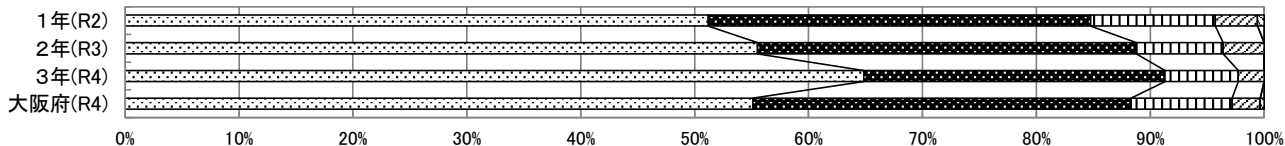
(I think pictograms are very) useful for (everyone.)

・無解答率は2番目に高く(最も高いのは5(4))、府との正答率の開きが3番目に大きかった問題(2番目は9(1))である。
・解答を記述することができた生徒は約6割であり、そのうち約48%が正答である。
・メモ等の与えられた情報を正しく読み取り、スピーチ原稿等の英文を正しく書く力を育成する必要がある。また、日頃の授業においても、日常生活の情報等をもとにして英文を書く機会を充実させる必要がある。

アンケート結果 《同一集団の経年変化①》

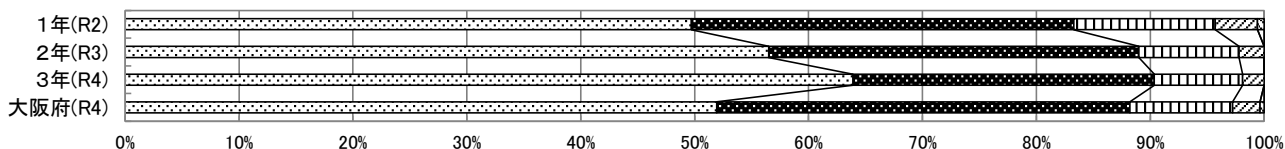
質問番号	質問事項										
問1	授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答	
1年(R2)	51.4	33.7	11.0	3.7	-	-	-	-	0.0	0.6	
2年(R3)	55.4	33.2	7.6	3.6	-	-	-	-	0.0	0.0	
3年(R4)	64.8	26.5	6.4	2.3	-	-	-	-	0.0	0.0	
大阪府(R4)	55.1	33.2	8.8	2.5	-	-	-	-	0.0	0.3	

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



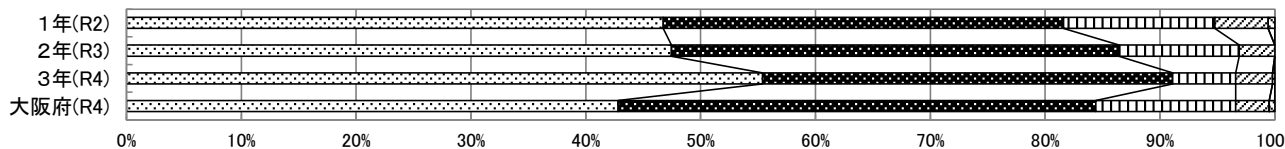
質問番号	質問事項										
問2	授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答	
1年(R2)	49.9	33.7	12.5	3.7	-	-	-	-	0.0	0.6	
2年(R3)	56.5	32.5	8.8	2.2	-	-	-	-	0.0	0.0	
3年(R4)	63.9	26.5	7.8	1.9	-	-	-	-	0.0	0.0	
大阪府(R4)	51.9	36.3	9.0	2.4	-	-	-	-	0.0	0.4	

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



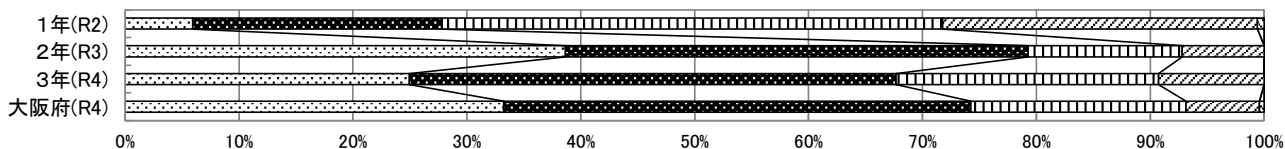
質問番号	質問事項										
問3	授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答	
1年(R2)	46.9	35.0	13.2	4.7	-	-	-	-	0.0	0.6	
2年(R3)	47.5	39.0	10.5	3.1	-	-	-	-	0.0	0.0	
3年(R4)	55.4	35.7	5.5	3.2	-	-	-	-	0.0	0.2	
大阪府(R4)	42.8	41.6	12.2	2.9	-	-	-	-	0.0	0.5	

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



質問番号	質問事項										
問4	授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答	
1年(R2)	6.0	22.0	44.1	27.7	-	-	-	-	0.0	0.6	
2年(R3)	38.6	40.6	13.5	7.2	-	-	-	-	0.0	0.0	
3年(R4)	25.0	42.7	23.1	9.3	-	-	-	-	0.0	0.0	
大阪府(R4)	33.2	41.0	18.9	6.5	-	-	-	-	0.0	0.4	

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答

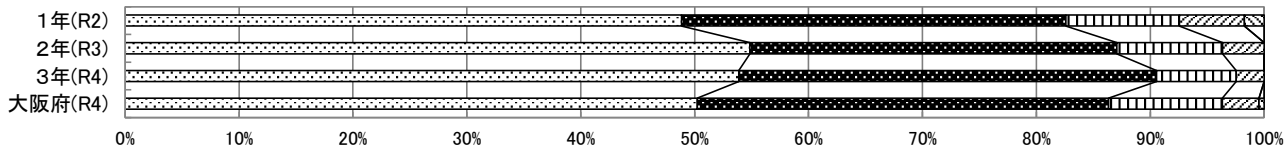


【問1～3】○学年が上がるにつれて肯定的回答の割合が増加しており、約9割以上の生徒が肯定的な回答をしている。
【問4】▼1年次と比較すると肯定的回答の割合は増加しているが、昨年度よりは減少している。また、府と比較しても肯定的回答の割合は小さい。
 →2年次より1人1台端末の本格的な運用が開始し、特にインターネットの活用が増加したと考えられるが、授業時の生徒のICT活用の機会がまだ十分ではない(令和4年度全国学調質問紙と同様の結果)。

アンケート結果 《同一集団の経年変化②》

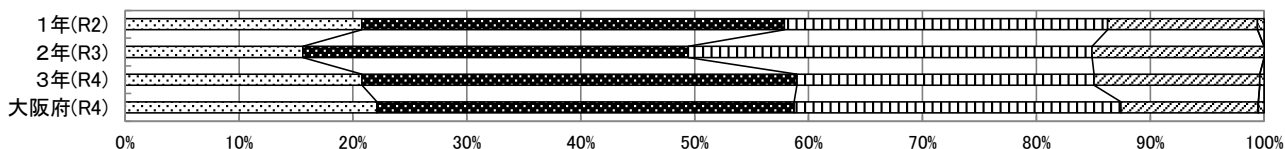
質問番号	質問事項									
問5	授業中、間違っても笑われない。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
1年(R2)	49.3	34.1	10.1	5.8	-	-	-	-	0.0	1.7
2年(R3)	54.3	31.9	9.2	3.6	-	-	-	-	0.0	0.0
3年(R4)	53.9	36.7	7.0	2.5	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	50.2	36.1	10.0	3.2	-	-	-	-	0.0	0.5

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



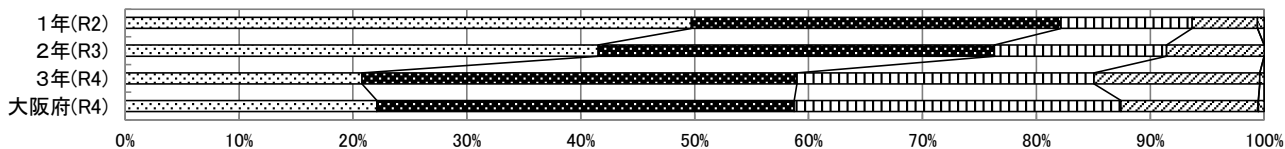
質問番号	質問事項									
問6	自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
1年(R2)	20.9	37.2	28.5	13.2	-	-	-	-	0.0	0.6
2年(R3)	15.5	33.6	35.2	15.0	-	-	-	-	0.0	0.0
3年(R4)	20.8	38.2	26.1	14.6	-	-	-	-	0.0	0.4
大阪府(R4)	22.1	36.6	28.7	12.1	-	-	-	-	0.0	0.5

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



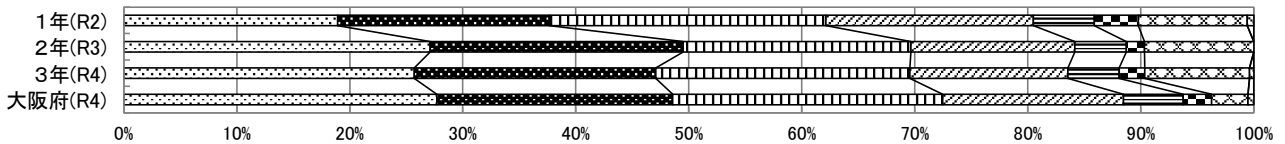
質問番号	質問事項									
問7	テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
1年(R2)	49.9	32.6	11.5	5.8	-	-	-	-	0.0	0.6
2年(R3)	41.2	34.5	15.0	8.5	-	-	-	-	0.0	0.0
3年(R4)	20.8	38.2	26.1	14.6	-	-	-	-	0.0	0.4
大阪府(R4)	22.1	36.6	28.7	12.1	-	-	-	-	0.0	0.5

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



質問番号	質問事項									
問8	普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
1年(R2)	19.0	18.8	24.6	18.4	5.4	3.9	9.7	-	0.0	0.6
2年(R3)	26.9	22.2	20.0	14.4	4.5	1.6	9.6	-	0.0	0.0
3年(R4)	25.7	21.4	22.5	14.0	4.5	2.3	9.3	-	0.0	0.4
大阪府(R4)	27.7	20.9	23.9	16.0	5.3	2.5	3.2	-	0.0	0.5

1. 4時間以上
 2. 3時間以上、4時間より少ない
 3. 2時間以上、3時間より少ない
4. 1時間以上、2時間より少ない
 5. 30分以上、1時間より少ない
 6. 30分より少ない
7. 携帯電話やスマートフォンを持っていない
 その他
 無回答



【問5】○学年が上がるにつれて肯定的回答の割合は増加しており、約90%の生徒が肯定的な回答をしている。また、府よりもその割合は多い。

【問6】▼府と同等の割合であるが、約4割程度の生徒が家庭学習に取り組めていない。

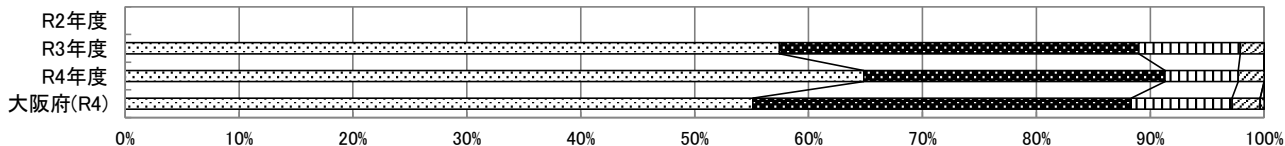
【問7】▼学年が上がるにつれて肯定的回答の割合は大きく減少している（府と同等の割合）。

【問8】▼1年次と比較すると使用時間が長くなっている（府と同等の割合）。約4～5割の生徒が、平日に3時間以上使用している。

アンケート結果 《前年度までの3年生との比較①》

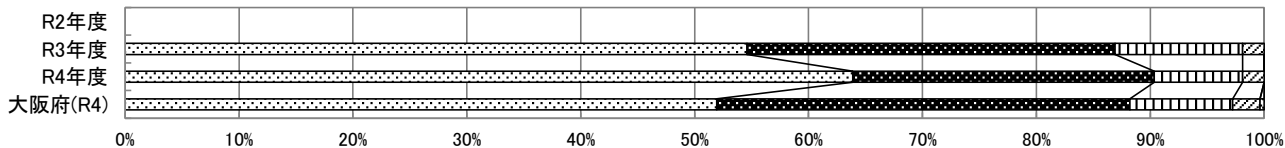
質問番号	質問事項									
問1	授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度										
R3年度	57.5	31.6	8.9	2.1	-	-	-	-	0.0	0.0
R4年度	64.8	26.5	6.4	2.3	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	55.1	33.2	8.8	2.5	-	-	-	-	0.0	0.3

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



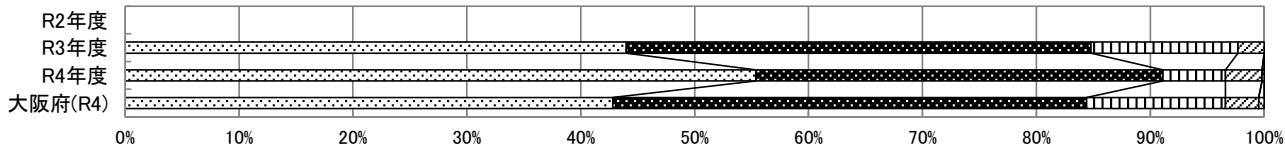
質問番号	質問事項									
問2	授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度										
R3年度	54.6	32.3	11.2	1.9	-	-	-	-	0.0	0.0
R4年度	63.9	26.5	7.8	1.9	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	51.9	36.3	9.0	2.4	-	-	-	-	0.0	0.4

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



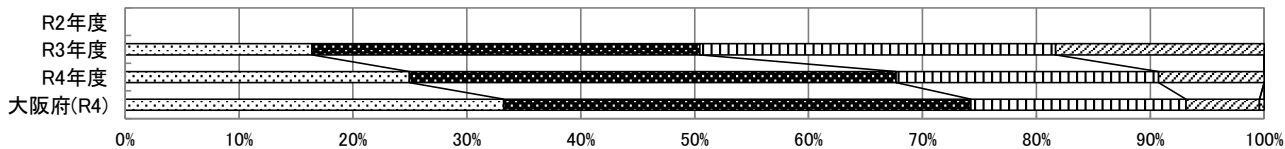
質問番号	質問事項									
問3	授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度										
R3年度	44.0	40.8	12.9	2.3	-	-	-	-	0.0	0.0
R4年度	55.4	35.7	5.5	3.2	-	-	-	-	0.0	0.2
大阪府(R4)	42.8	41.6	12.2	2.9	-	-	-	-	0.0	0.5

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



質問番号	質問事項									
問4	授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度										
R3年度	16.4	34.0	31.2	18.3	-	-	-	-	0.0	0.0
R4年度	25.0	42.7	23.1	9.3	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	33.2	41.0	18.9	6.5	-	-	-	-	0.0	0.4

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答

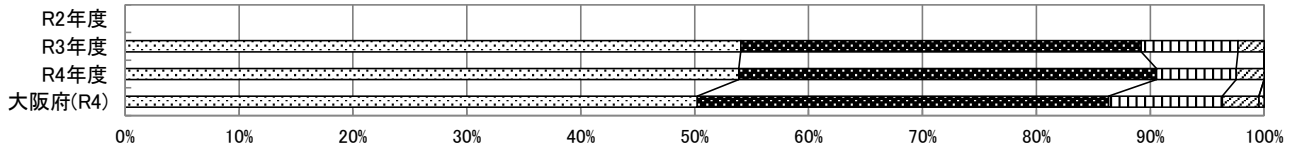


【問1～4】○昨年度の3年生より肯定的回答の割合が増加している。

アンケート結果 《前年度までの3年生との比較②》

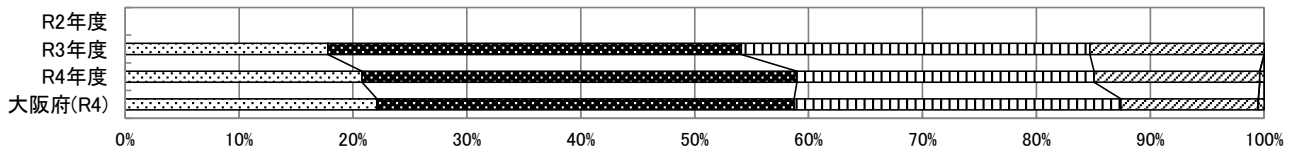
質問番号	質問事項									
問5	授業中、間違っても笑われない。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度										
R3年度	54.1	35.2	8.5	2.3	-	-	-	-	0.0	0.0
R4年度	53.9	36.7	7.0	2.5	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	50.2	36.1	10.0	3.2	-	-	-	-	0.0	0.5

1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまる
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 その他
 無回答



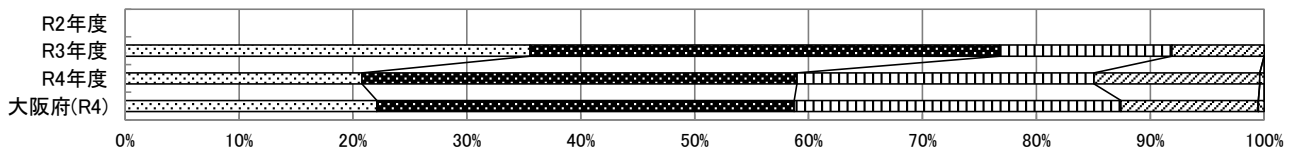
質問番号	質問事項									
問6	自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度										
R3年度	17.8	36.3	30.6	15.3	-	-	-	-	0.0	0.0
R4年度	20.8	38.2	26.1	14.6	-	-	-	-	0.0	0.4
大阪府(R4)	22.1	36.6	28.7	12.1	-	-	-	-	0.0	0.5

1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまる
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 その他
 無回答



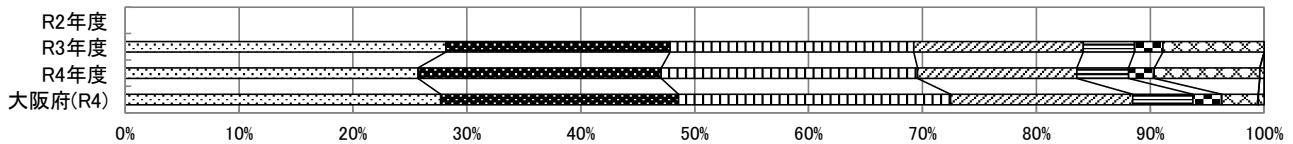
質問番号	質問事項									
問7	テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度										
R3年度	35.5	41.2	15.1	8.1	-	-	-	-	0.0	0.0
R4年度	20.8	38.2	26.1	14.6	-	-	-	-	0.0	0.4
大阪府(R4)	22.1	36.6	28.7	12.1	-	-	-	-	0.0	0.5

1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまる
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 その他
 無回答



質問番号	質問事項									
問8	普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度										
R3年度	28.2	19.7	21.4	14.9	4.5	2.5	8.9	-	0.0	0.0
R4年度	25.7	21.4	22.5	14.0	4.5	2.3	9.3	-	0.0	0.4
大阪府(R4)	27.7	20.9	23.9	16.0	5.3	2.5	3.2	-	0.0	0.5

1. 4時間以上
 2. 3時間以上、4時間より少ない
 3. 2時間以上、3時間より少ない
 4. 1時間以上、2時間より少ない
 5. 30分以上、1時間より少ない
 6. 30分より少ない
 7. 携帯電話やスマートフォンを持っていない
 その他
 無回答



【問6】○昨年度の3年生より肯定的回答の割合が増加している。

【問7】▼昨年度の3年生より肯定的回答の割合が減少している。

本年度の調査結果について(総括)

《各教科の結果より》

① 平均点

	国語	社会	数学	理科	英語
柏原市	53.9	56.8	55.9	56.1	51.5
大阪府	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2

○国語科・社会科・理科では、府の平均点を上回った。特に社会科では、1.4点上回った。

▼数学科・英語科では、府の平均点を下回った。特に英語科では、2.7点下回った。

② 同一集団の経年変化(対大阪府比)

	国語	社会	数学	理科	英語
1年(R2)	1.03	—	1.04	—	1.02
2年(R3)	1.04	1.01	1.03	1.04	0.99
3年(R4)	1.00	1.03	1.00	1.00	0.95

※社会・理科で選択された問題が異なる場合は、各結果の平均値を示している。

○社会科では、2年次よりも対府比における数値が上昇している。

▼国語科・数学科・理科・英語科では、1・2年次よりも対府比における数値が下降している。特に英語科では、1.02から0.95と大きく下降している。

③ 前年度までの3年生との比較(対大阪府比)

	国語	社会	数学	理科	英語
R2					
R3	0.98	0.92	0.89	0.98	0.93
R4	1.00	1.03	1.00	1.00	0.95

※社会・理科で選択された問題が異なる場合は、各結果の平均値を示している。

※令和2年度は調査未実施。

○すべての教科で、対府比における数値が昨年度の3年生より上昇している。

《アンケートの回答結果より》

○授業中の活動や様子(書く場面がある、考えや意見を伝える場面がある、話し合い活動を通じて考えを深める、間違っても笑われない)については、1・2年次よりも肯定的な生徒の割合が増加しており、昨年度の3年生と比較しても良好な結果である。また、府と比較してその割合が大きい。【問1・2・3・5】

▼ただし、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動については、府と比較して肯定的な回答の割合が小さい。また、2年次よりもその割合は減少している(昨年度の3年生よりその割合は大きい)。授業中の学習者のタブレット端末の活用が十分ではないと考えられる。【問4】

▼約4割の生徒が、家庭等で自ら課題を見い出したり、勉強をしたりしていない(府と同等の割合、2年次よりは改善しているが1年次と同等、昨年度の3年生と同等)。【問6】

▼インターネットも含めてニュースを見る生徒の割合は、府と同等であるが、1・2年次より大きく減少している(昨年度の3年生よりその割合が小さい)。

▼約4～5割の生徒が、平日に3時間以上携帯電話やスマートフォンを使用している(府よりその割合は若干小さい)。また、1年次と比較してその割合は大きく増加している(昨年度の3年生と同等)。

今後の取組み

《教育委員会としての今後の取組み》

- ・チャレンジテストの分析を市内で共有し、全国学力・学習状況調査の分析結果とも関連付けながら、各校の授業改善に活用する。
- ・授業はもちろん、授業以外でも子どもの主体的な学びを促すため、家庭学習や自学自習の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく。
- ・スマートフォンやSNSについて安全な使い方やリスクを学べる研修を実施し、日常生活におけるスマートフォン等の適切な使い方や情報モラルを含めた情報活用能力の育成を支援する。
- ・教員の授業力のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を実施する。とりわけ、ICT活用においては、授業での子どもの使用について着目し、学力向上につながる活用を共有したい。ただし、効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する。
- ・優れた実践をしている教員による公開授業や実践発表をとおして、他の教員、特に経験の浅い教員も高い指導技術を習得できるようにする。そのため、学校公開の授業参観及び取組み報告会、校内研究授業に参加し、好事例等の集約に努める。

《学校における今後の取組み》

- ・チャレンジテストの分析結果について、府、市の状況を参考に、学校の実態や目の前の子どもの様子をふまえながら授業改善や各取組みの質の向上に活かす。
- ・教員全員が授業力向上をめざし、新しい学習指導要領の意図をふまえた授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる。
- ・ICT教育推進リーダーを中心に、授業や家庭学習において、ICTを効果的に活用できる学習指導を充実させる。あわせて、情報モラルを含めた情報活用能力の育成を図る。
- ・校務におけるICT活用をさらに充実させ、ゆとりをもって教員が子どもに向き合うことができるようにする。
- ・タブレット端末や個人のスマートフォンの家庭での使用について、基本的な生活習慣の観点も含めて家庭と連携しながら適切に使用できるように指導する。

《家庭にお願いすること》

- ① 基本的な生活習慣の定着
 - ・決まった時間に寝起きすることを心がけ、適切な生活リズムを意図的につくる。
 - ・生活リズムが崩れないよう、発達段階に応じた適切な睡眠を取るよう促す。
 - ・朝ごはんを食べるように促し、学校での学習の質の向上につなげる。
- ② 家庭学習・主体的な学びへの支援
 - ・発達段階に応じて家庭学習の適切な時間を定め、学習習慣を定着させる。
 - ・宿題だけではなく、子どもが主体的に家庭でも学習できるように支援する。
 - ・子どもの興味関心に基づき、主体的に学びに向かうことができるように支援する。
- ③ スマートフォンやPC、ゲーム等の使用についてのルールづくり
 - ・ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用状況を把握し、その使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、適切なルールを決める。
 - ・タブレット端末等のICT機器を活用し、適切なオンライン学習ができるように支援する。